

大原中だより	第7号 H27. 11. 1	さいたま市立大原中学校 さいたま市浦和区大原3-1-11 TEL 048-831-5397
--------	-------------------	---

「成長を待つ」

校長 安藤盛光

「スポーツの秋」「文化の秋」「読書の秋」等といわれますが、秋は運動や文化活動にふさわしい季節だと思います。10月22日に行われたさいたま市駅伝大会では、女子チームが5位に入賞し、県大会へ駒を進めます。男子チームは28位でした。男子チームがりっぱだったことは、各選手が普段の練習でのタイムを本番で上回り、力を存分に発揮できたところでした。長距離に挑戦する生徒を見ると、どの生徒もねばり強いという特徴があるように感じます。10月30日には、校内合唱コンクールが実施されました。どのクラスもレベルの高い歌声を披露してくれました。特に3年生の合唱は審査員泣かせで、ほとんど差が付きませんでした。多くの保護者の皆様にご来場いただきありがとうございました。

今年の読書週間は10月27日から11月9日です。私が大学へ入学する直前のことだったと思いますが、大学に入学したら、乱読で良いから1000冊本を読むことが大切だという記事を目にしました。その記事が忘れられず、その後読んだ本を簡単にメモするようにしています。1000冊を越え、新たに2000冊という目標を立ててはみたものの、すっかりペースが落ちてしまい、未だに達成できていません。息子にも読書のおもしろさを伝えようと思い、何冊か本を紹介してみました。旅行や様々な国々に興味を持てればと考え、長男には沢木耕太郎さんの「深夜特急」を薦めてみました。しかし、私が渡した本は部屋の隅に積まれ、埃をかぶったままで読んだ様子は全くありませんでした。結局、彼の部屋からその本を引き上げてしまいました。その彼が大学卒業間際に、不要になった本を処分するので、読みたい本があったらあげると言ってきました。何冊か手に取った中に「深夜特急」があったのです。どうやら自分で購入したものようです。話を聞いてみると、おもしろくてあつという間にすべて読んだということでした。彼は旅行を趣味とし、今では一人で海外に出かけていきます。親が考えたようには物事は進まないをつくづく思いました。

さて、今年は夏の甲子園第1回大会から100年目とのことで、「高校野球100年 名将が選ぶ最強列伝」という特集を雑誌でやっていました。「投手編」「野手編」「監督編」「名勝負編」それぞれについて、5人の名将と言われる監督さんが座談会形式で選手や監督を挙げて、思いを述べる企画です。星陵高校の山下監督が「監督編」で挙げたのが、和歌山県立箕島高校の尾藤 公監督です。箕島高校と言えば、1979年の夏に星陵高校と延長18回の熱戦を繰り広げたことが皆さんの記憶に残っているかもしれません。春夏計4回全国を制覇している強豪校です。山下監督は、『尾藤さんは三振やエラーをした選手も笑顔でベンチに迎える。あの死闘の中で、尾藤さんの笑顔に人間性の差を感じました。あの頃の私は選手を叱ってばかり。ミスを許し、成長を待たなければならないと学んだ。尾藤さんに野球観、人生観を変えてもらった。』と述べています。今の世の中はスピードばかりを求め、すぐに成果を出すことばかり考えていないでしょうか。何度か述べてきましたが、「教育」は子どもたちの成長を待つ余裕を持って指導していくことが必要です。かくいう私も生徒や息子たちを叱ってばかりで、成長を待ちきれませんでした。遅ればせながら、大会の応援に行った時は、勝っても負けても笑顔で生徒を迎えるようしています。しかし、私の引きつった笑顔では、まだまだだと思います。